

ミネソタ通信

第6号

発行:日本ミネソタ会

発行日:2002年3月15日

<目次>

(会長報告)	佐野 東隆	P1
(会員寄稿)		P2
ミネソタ便り	山下 宏	P2
パソコン黎明期	沼形 義彰	P4
2001年、ミネソタの短い夏の後で……	坂本 仁	P5
近況報告	小幡 みどり	P6
(編集後記&お知らせ)	山口 健一	P7

御 報 告

日本ミネソタ会会長

佐野 東隆



2002年を迎え、会員各位におかれましてはお元気で御活躍でしょうか。

この度「ミネソタ通信」第6号を発行するにあたり、これまでの皆様の御協力に感謝申し上げますと共に、益々の御支援賜りたくよろしくお願い申し上げます。

第5号発行は2000年5月でした。その後の活動状況をお知らせ致します。

2000年11月28日に役員会を国学院大学院友会館内で開きました。「日本ミネソタ会」のホームページにつ

いて、また次回総会の日時と場所について話し合いました。

2001年3月30日、会場選び、下見を兼ねて役員が集合、国学院大より交通便の良い学士会館を使うことに決定しました。

総会は御承知の通り2001年4月15日に41名の出席を得て学士会館で12時より開催、総会の後、白石振作東大名誉教授の講演が行われました。「エネルギーと環境」と題する講演は時宜を得て大変印象深いものであったと好評でした。

講演終了後、デジタルカメラを用いて記念撮影、早速ホームページに掲載されました。

懇親会は中村正吉初代会長の乾杯の音頭で開会、いつもながら和やかな歓談の時を過ごしました。当日、山下宏駐日代表(ミネソタ州政府貿易局駐日代表事務所)が出張で欠席されたのは残念でしたが、代って鍋島忠雄氏よりミネソタ関連のトピックス、お知らせ等がアナ

ウンスされました。ミネソタオーケストラ公演もその話題の一つでしたが、周知の如く同時多発テロの影響を受け、来日中止が後日新聞広告欄に掲載されました。

会の締めは石田常博医学博士にお願いし、無事閉会致しました。

今後の会の運営として特筆すべきこととしては情報のデジタル化が挙げられます。少しずつ電子化が図られており、役員会の連絡、ミネソタ通信の作成、名簿管理等以前より効率的に進んでおります。完成度をより高めて行かねばなりません、それには会員の御協力も頂きたい、ホームページ等を御利用の上御意見をお寄せ下されれば幸いです。

名簿の完備につきましては会員の移動も多く、御連絡の途絶える場合も少なからずあり、難しいところですが、毎たび改訂をしていますので、このことにも皆様の御協力、御理解を得たいと存じます。近年中にお届けたいと考えますが、もしも会員の中に不掲載を希望される方があれば御一報下さいますよう。

最後になりましたが、文中にお名前のお出でられます中村正吉初代会長は、2001年11月30日に御病気のため逝去されました。心よりお悔やみ申し上げます。ミネソタ通信の第3号には中村元会長の「GARIOA 留学の思い出」が載っております。お手許にありましたら御再

読下さい。元会長の御冥福をお祈りしつつこの稿を終わらせて頂きたいと存じます。

尚ホームページは：
<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Apricot/4375/>

異動

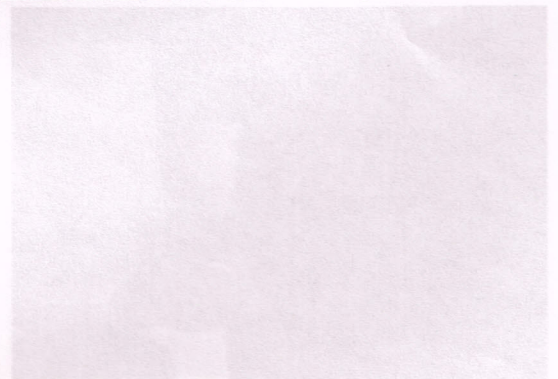
会長（住所変更）

〒151-0063

渋谷区富ヶ谷2丁目 29-10-312

TEL:03-3467-3482

役員 新書記 中村旭氏



ミネソタ便り

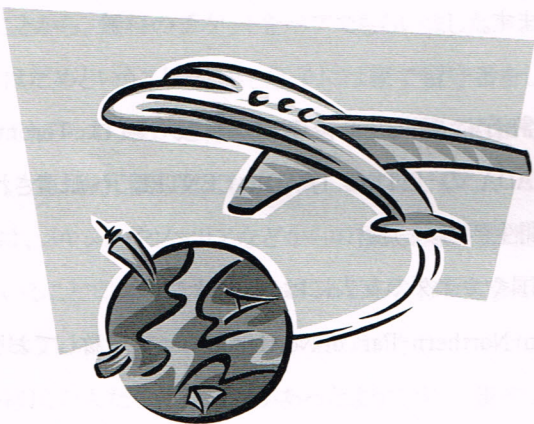
山下 宏

ミネソタでは現在「日本・日本語ブーム」が広がっています。アメリカ全体を見ますと、80年代以降人々の日本への関心は日本経済の浮き沈みと呼応するような傾向があります。しかしミネソタでは大人から子どもまで日本に対する関心は高まる一方です。2001年を振り返ると、Minnesota International Center が「Year of Japan」として1年を通じて様々なイベントを行い、元米

国駐日大使や企業トップを招いてのシンポジウムを開催、また常陸宮ご夫妻が皇族としては初めてミネソタを訪問しミネソタ大学より名誉博士号を授与されるなど、人々の目がより一層日本へ向けられた年でした。

毎年の日本関連行事も、日米協会や各姉妹都市委員会の努力ですっかり定着しています。長崎-セントポール姉妹都市委員会が毎年8月に行う「Lantern

Lighting Festival) (お盆祭り)は昨年で4回目を迎え、5000人以上が日本文化を求めて集まります。また高校だけでなく、中学・小学校でも日本語・日本文化の授業を正規の年間プログラムとして取り入れるところが増えており、「Toyota」や「Nintendo」が生まれた国が日本であることを知ることで、子どもたちはより一層身近に日本を感じ始めるようです。毎年春には高校生の日本語力・日本に関する知識を試す学校対抗のクイズ大会「Japan Bowl」が開かれ、アイオワ、ウィスコンシンからの参加も含めて20チームが日頃の勉強の成果を競い合います。優勝チームはワシントンでの全国大会に出場し、昨年の大会ではミネソタはハワイに次いで準優勝と健闘しています。ミネソタ大学の日本人留学生も年々増えており、99年には日本人学生会 (Japanese Students Association) を設立、学生間の交流はもちろん、生活情報の提供や文化イベントの企画運営など多方面に渡って活発に活動しています。



日本に関心を持つ人々の動機は様々ですが、上級クラスまで進んで日本語を学ぶ高校生たちは口を揃えて日本語はミネソタでの就職の有利な条件だと言います。これは州をあげての対日貿易・観光促進策の結果と言

えましょう。長年にわたる様々なレベルでのミネソタ-日本の結びつきに対する努力は大きな広がりを見せ、そして若い世代へと受け継がれつつあります。



一つ残念なこととしてお知らせしなければならぬのは、昨年11月のミネソタオーケストラの来日公演延期されたことです。音楽監督大植英次氏が最後のシーズンを迎え、皆様にも公演を心待ちにしていってくださった方も多いと思いますが、同時多発テロの影響により、残念な決断となりました。

なお、最後にお知らせですが、ミネソタ州政府駐日代表事務所は昨年秋をもちまして下記へ移転しております。またエグゼクティブディレクターとして安田さおりが加わり、ミネソタ-日本間のビジネス発展に一層努力していく所存です。今後とも皆様のご支援とご指導をお願い申し上げます。

〒141-0031

東京都品川区西五反田 7-13-6 SDI 五反田ビル8F

TEL: 03-5434-3991

FAX: 03-5740-6433

ミネソタ州政府貿易局駐日代表事務所

駐日代表 山下 宏

エグゼクティブディレクター安田 さおり

パソコン黎明期

沼形 義彰



1976年夏から77年夏まで、U of M の Computer Science に留学しました。出身の通産省、特許庁で、機械による特許情報検索システムを手がけており、大型の機械で実験を繰り返していました。

当時の機械は、英数字とカタカナだけが入出力できるものでした。日本語ができるシステムとして、24X24ドットの入出力マシンを作り、とりあえず、2000字程度の漢字を取り扱うことが可能となりました。ドットプリンターは良いのですが、入力ボードに苦労しました。1個のキーに8文字を割当て、シフトキーで入力するのですが、素人では無理で、和文タイピストにお願いしました。漢字とひらがなの出力は読みやすく、評判は高かったのですが、普及は難しいシステムでした。

プリントアウトを指導教授に見せたのですが、「なるほど面白そうだが、24X24ドット使わなければ、表現ができないのであれば、日本語に問題があるのでは?」と一蹴されました。

当時の通産省は、日本国内で稼働しているコンピューターの台数を統計にとっていました。

ミネソタの学生にその話をしたら、「いわゆるコンピューターなら、家に1台あるよ」といって、案内してくれました。

ガレージに、CPU、Keyboard、CRT Display をつない

だ自作のコンピューターがありました。

帰国すると、秋葉原で8ビットの組み立て式マイコンが売られていた時代です。

あれから25年、感慨ぶかいものです。



76年9月の始めに、500ドルで買った FORD TRINO (Full Size の米中古車で、73年の Oil Crisis で格安) で北に向けて Drive に出かけたところ、Mpls を出るとすぐに雪に出会い、Duluth, Two Harbors, Grand Rapids を回り、北国の厳しさを肌で感じると共に、来るべき冬に不安を覚えたものです。ちなみに、76年の冬は NY の Hudson Rv. が凍るほどの記録的な厳冬でありました。

MN の冬の体験は、皆様の記憶に鮮明に残るものと存じます。

特許庁に戻り、3年後の80年に、今度は Toronto, CANADA の JETRO TRADE CENTRE へ派遣され、4年間生活しました。

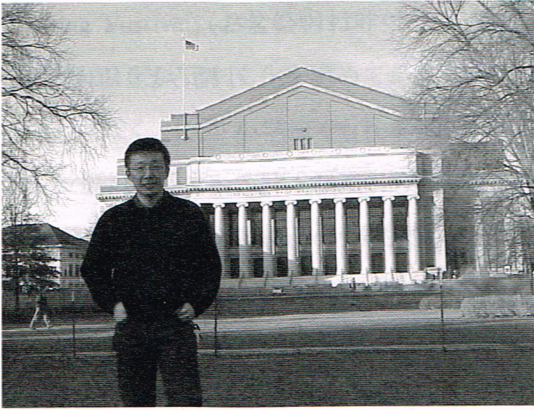
米国やカナダの友人には、小生は、“Pro-Northern-Part of North America” と称しております。

88年に、特許事務所を開設し、以来、弁理士を天職と心得て過ごしております。

海外への出張も多いのですが、1日も早く、旅行が楽しめる時代に戻りたいものです。

2001年、ミネソタの短い夏の後で……

坂本 仁



今年のミネソタの冬は平年と比べても暖かいのでしょうか。二月にはいった今でも、ツインシティーズでは華氏0度まで下がったことがないようです。ミネソタに来て4年になりますが、去年は長くて雪が多い冬でした。暖冬が続いた後で、余計にこたえたのかもしれませんが。五月にもなってやっと暖かくなりました。ダライラマ14世がミネソタに来て、ミネソタ大学でもその2日くらいの間に数々の講演会やイベントがありました。私の在籍していた Humphrey Institute が主催学部の一つでもあることから、無料のチケットをペアでもらいましたが、子供はだめということで、妻と息子には家で留守番をしてもらって、友人と行きました。お話はとても和やかで、ときおり冗談も交えながら楽しいものでした。ミネソタは、メキシコやソマリアなどからの移民を多く受け入れていることで有名ですが、チベットからの移民も多く受け入れているので、ミネソタ訪問の本来の目的の一つには、その移民の人たちと会うことがあったようです。街や大学の書店には特別コーナーが設けられ、ダライラマが書いた本が並べられ、ほんの数日の訪問でしたが、州全体が和やかになった瞬間でした。長かった冬の影響でしょうか、あまり暑い日もないうちに夏が終わり、秋学期が始まったように感じました。私は Master をとった古巣の Mechanical Engineering で Ph.D. のプログラムを始めました。同時テロが起こったのは、大学全体がまだあまり落ち着いていない秋学期二週目の火曜日でした。大学はその日、めずらしく午後から休講になりましたが、学

生たちの落ち込んだ顔は長く続きました。TAをしていたために、特に自分のクラスにいる学生で影響を引きずっている人はよく分かりました。東海岸に住む家族と連絡がとれなかったりして、とてもショックだったのだろうと思います。テロ以来、アメリカでは、星条旗を掲揚する人が多くなりましたが、大学でも Northrop Auditorium の正面に巨大な星条旗を掲げたりしていました。今でこそ学生や大学は落ち着いてきていますが、連邦政府や州政府がいろいろな法律の改正にのりだしている今、外国からの留学生、研究者やビジネスマンにとっては、これまで以上に不便を強いられることになりそうです。

例えば、ミネソタ州では ID や運転免許証の発行について、一時滞在の外国人に対しては厳しくしようという法案が作られつつあります。私はこういった問題も含めて、ミネソタに住んでいる日本人が草の根レベルで情報交換が出来、対処できるようなコミュニケーションのモードが必要だと思ってきました。そのさきがけとして二年ほど前に設立したのが Minnesota-Japan と呼ばれるメーリングリストです。現在は150人以上の登録があり、ムービングセールの情報から、上のようなより公共性の高い問題の情報まで交換しています。多くはミネソタ大学に学ぶ日本人学生や研究者の人たちですが、ツインシティーズ近郊に住むビジネスマンや日本に興味を持つアメリカ人など、多彩な人が登録しています。日本にいる方の参加も大歓迎です。ミネソタにお立ちよりの際に一筆投稿されると、訪問時には誰かがお手伝いしてくれるかもしれません。

<http://www.egroups.co.jp/group/mn-japan>

この活動の一環として、新しく日本からミネソタに来る人向けに Information Booklet なる情報ページを Internet で提供しています。これからもどんどん情報を更新したり付け足したりしていこうと思っています。

<http://www.menet.umn.edu/~hsakamot/jsabook/>

昨年5月に主人の転勤で米国東海岸のニュージャージー州へやってきました。1991年から1995年に続いて2度目の米国滞在となります。前回は学生およびビジネスでミネソタ州とニュージャージー州に滞在しましたが、今回はこちらで昨年9月に出産も経験し、子育てをしながら主婦として滞在するため、ニュージャージー州という同じ場所に住んでも、立場が違うと目にとまるものが随分違うようです。

私の住むフォートリーはニュージャージー州の北部でハドソン川沿いにあり、対岸のニューヨークのマンハッタンとはジョージワシントン・ブリッジでつながっています。私共の住居の周辺はマンハッタンで働く人々が多く、日本人の方もたくさん住んでおられます。従って、日本の食品のスーパーマーケットや書店もあり、車で15分の至近距離です。習い事、幼稚園、小学校、医師も日本語でOKのところを選べるという環境です。そのため、海外駐在といっても、住んでみた気分は日本国内で知人のいない場所へ引っ越す程度の緊張感という言い過ぎですが英語に対する恐怖感が少なく、ミネソタとニュージャージーの日本人の生活の大きな違いはそこにあると思います。

またニュージャージー州は9・11と炭疽菌事件とも関わり深い場所でもあります。



昨年9月11日は晴天で、今日も一日暑い日になりそうだと思います。産婦人科での出産予定日直前の検診

のため午前9時すぎに産婦人科のオフィスに着いたところ、受け付けの女性がテレビのある部屋から飛び出でてきて「ワールドトレードセンターに飛行機が激突したのよ。・・・。」と叫びました。事件の内容は皆様がすでに御存知のとおりです。私の担当の先生は、真つ青な顔で患者さんのカルテを並べて御家族に関係者がいないかどうかを調べはじめましたし、私は診察台に黙って座っていました。事件直後はこの辺り一帯の電話が不通になってしまい、安否の確認もできない状態でした。駐在の方の中にもご主人と連絡がすぐにとれず、親戚も近くになく、ひとりで悶々とされた方も多かったと思います。民放テレビでは恐ろしい光景を繰り返し放映し、PBSチャンネルだけが「小さな視聴者のためにこの時間は子ども向け番組を放送しています」とテロップを流しながらセサミストリートなどの番組を放送していたのが唯一のトランキライザーに思えました。

炭疽菌事件の直後は郵便物を取りに行くときには、いらぬビニール袋とティッシュペーパーを持って、玄関先でいらぬDMなどは即、袋の中へ捨て、必要な郵便物はティッシュペーパーでさっとひと拭きするのがちょっとした「流行」でした。

事件直後には、アメリカ国旗がよく売れたそうですが、家の窓や車のアンテナに国旗をつけているのをよく見かけました。スーパーの紙袋や店の入り口に「UNITED WE STAND」と掲げられているのもよく見かけました。今でもスーパーの駐車場の一列に一台は、旗をつけた車が見かけられます。外出を控える人も増え、その影響で家でお菓子やお料理をするためにクッキング用品が売上げを伸ばしたとのニュースもありました。

事件のメディアへの露出度が減ってきた今も、ホリデー中も「GROUND ZERO」で黙々と作業を続ける人々の姿がニュースで映し出されると心が痛みます。作業を続ける人々に差し入れをする子供や大人の姿を見るとちょっぴり心が暖まります。犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、そのご家族の方々の心が少しでも癒されるようにお祈りするばかりです。そして、平凡な一日が過ごせたことを感謝する毎日です。



編集後記&お知らせ

編集担当 山口健一

- ミネソタ通信第6号が出来上がりました。楽しんでいただければ幸いです。今回も会員またはミネソタ在住の方に原稿をお願いしましたところ皆様快く引き受けていただきました。大変感謝しております。
- 昨年のメジャーリーグはイチローの話題で持ち切りでしたが、私たちミネソタ経験者にとってはツイズがなくなるかもしれないというニュースの方が衝撃的ではなかったでしょうか。幸い今年チームは存続しますが、予断を許しません。みんなで応援しましょう。
- 昨年春にホームページを開設いたしました但しが御覧いただいたでしょうか。まだ「とにかく始めました」という段階です。皆様からのご意見をいろいろと参考にしていきたいと思いますので感想をメールして下さい。よろしくお祈りします。
- 会費の振り込み用紙を同封しております。日本ミネソタ会は皆様の会費で運営しておりますので、お手数ですが振り込みをお願いいたします。